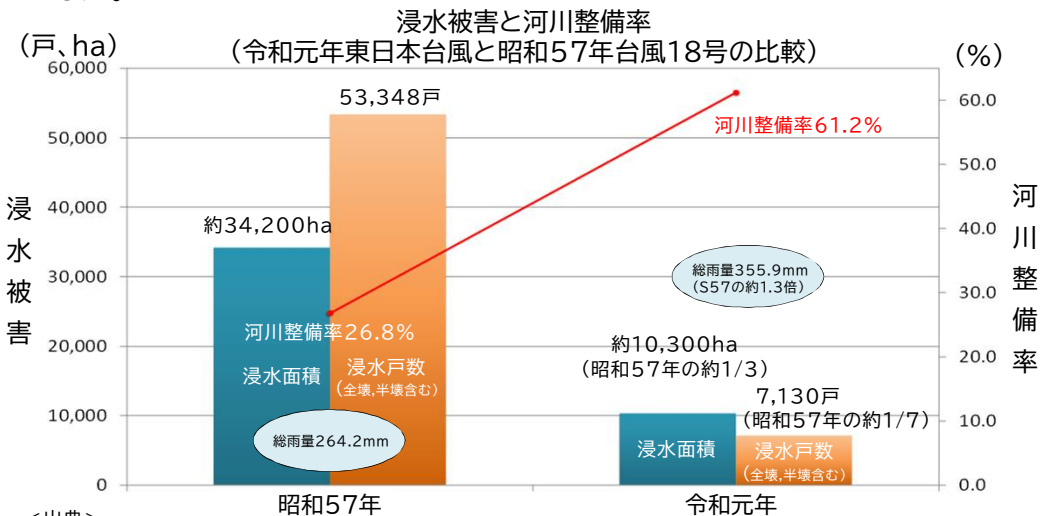


11 ハード整備やソフト対策の効果

ハード整備の効果

令和元年東日本台風の降雨量は、昭和57年台風18号の1.3倍でしたが、河川整備率向上に伴い、浸水家屋数は約1/7、浸水面積は約1/3にとどまりました。



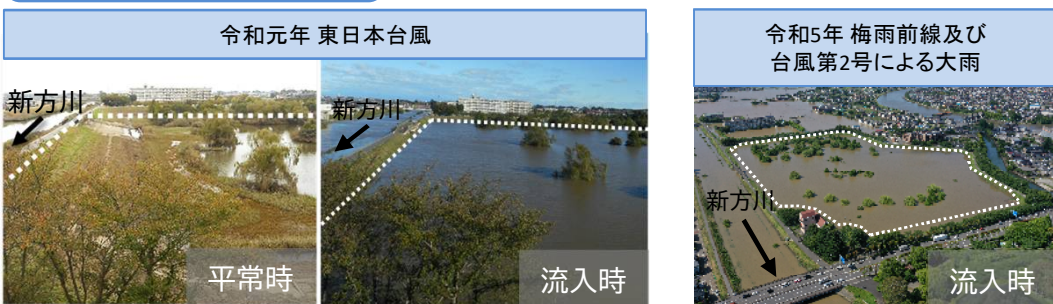
<出典>
 ※ 1, 2 昭和57.9月台風18号水害調査報告書(埼玉県)
 ※ 3 県が委託した測量会社が、衛星写真等から判別し、集計したもの(調節池や内水氾濫等を含む)
 ※ 4 記者発表資料37報(埼玉県)

調節池の効果例(新方川:越谷市) ※新方川流域以外も含む

大吉調節池が整備される前、昭和57年台風18号では7,552棟※の大規模な浸水被害が発生しましたが、令和元年東日本台風の際には、内水による329棟の浸水被害にとどまり、調節池の整備が大幅な被害軽減に寄与しています。

また、令和5年6月の梅雨前線及び台風第2号による大雨では、計画容量(40万4千m³)満杯まで雨水が流入し、浸水被害の軽減に貢献しました。

大吉調節池(越谷市)



ソフト対策の効果

警戒避難の例(川越キングス・ガーデン)

- 避難確保計画を作成(平成29年)
- 避難訓練の実施(毎年実施)
- 避難確保計画作成の講習会に参加(平成30年11月)
- 避難確保計画の見直し・提出(平成31年1月)

令和元年東日本台風では、避難確保計画及び毎年の避難訓練に基づき、迅速な避難を実施し、職員・利用者全員が無事避難できました。

東日本台風時の川越キングス・ガーデンの対応

- 12日 10時頃 重篤者の移動、避難のための準備を開始
職員24人待機、水位・雨量情報収集
- 13日 2時頃 避難開始、川越市に避難開始の報告
- 13日 4時頃 避難完了、川越市へ報告
- 13日 夕方 警察等により、近傍の避難所へ全員避難

氾濫 川越市より越辺川破堤の情報提供



出典:国土交通省資料から河川砂防課作成